

# ソフトウェア開発論

# 総合試験局面

第2.16版

木馬亭

- シナリオ試験
- 使用性評価
- 平行ラン

群馬県吾妻郡長野原町  
北軽井沢1990  
TEL 0279-84-5008  
2007-08-15 14:03  
000005

セットメニュー	¥3,600
セットメニュー	¥3,900
内税対象計	¥7,500
内税	5.0% ¥357
合計	¥7,500
お預り	¥10,000
お釣	¥2,500

## ソフトウェア開発論・スケジュール

- はじめに
- 要求分析
- 外部設計
- 内部設計
- プログラミング
- 単体試験
- 結合試験
- ➡ ■ 総合試験局面
- 信頼性評価
- まとめ

## 総合試験局面

- WHAT: 実際の運用環境のもとで、利用者の要求に答えているかという観点で試験する。
- HOW:
  - ステップ1: **シナリオ試験**:  
ソフト全体の**信頼性**を、利用シナリオを用いて確認する。
  - ステップ2: **使用性評価**:  
稼働予定の実環境にて、**使用性(使い勝手)**を、利用者が評価する。
  - ステップ3: **平行ラン**:  
現況稼働システムと並行に実環境で、**信頼性**を利用者が確認する。
- WHO: ステップ1は、利用者、連携システムの外部設計者、保守者などが実施する。

## ステップ1：シナリオ試験

- 基本的な考え方:
  - **実際の業務で使用されるデータを用いて、**  
新業務プロセスに沿って、開発したソフトを使用するシナリオを、利用者や連携システムの外部設計者、保守者が作成する。
  - シナリオが開発方針、外部設計書から見て問題ないことを外部設計者が確認する。
  - 完成したシナリオを、作成者が実行してみる。
  - 作成者からの意見を聞いて、ソフトを微調整する。

# 注文管理システムのシナリオ試験例

- 試験環境: 本番で用いるPC4台とサーバ機、材料発注システムを用意し、定休日2月29日(木)に試験を実施する。
- 参加者:
  - 各店舗の接客係4名、および外部設計担当者、材料発注システムの保守担当者
- 作業手順:
  - 各店舗の接客係が作業マニュアルに沿って、過去の実際の注文データを用いた作業シナリオを用意する。
  - 外部設計担当者、材料発注システムの保守担当者がそれらをレビューし、接客係とすり合わせて作業シナリオを完成する。
  - 当日、作業シナリオに基づき、テストを接客係が実施する。
  - 材料発注システムより、日次処理(一日一回)の問い合わせをかける。
  - 結果を材料発注システムの保守担当者に確認していただく。
  - 終了後、アンケートで、接客係に業務マニュアルおよびPC使用感を記入してもらう。
- 予想結果:
  - 使用感では、不満点がない。また、接客係が容易に作業シナリオを作成出来る。
  - 正確に動作する。

## ステップ2：使用性評価

- 基本的な考え方:
  - 実際の使用者が、実際の使用環境で新業務プロセスに則り作業する。
  - 使用者に、次の点についてコメントをいただく。
    - ▶ 新業務プロセスの作業マニュアルに問題はないか。
    - ▶ 新業務プロセスを実施可能か。
    - ▶ 実施可能とすれば、どのあたりに改良点があるか。
  - コメントを反映して、ソフトを微調整する。  
微調整で済まない場合は、外部設計書を盾に取り、納期・費用について再度協議する。

## 注文管理システムの使用性評価例

- ステップ1の「注文管理システムのシナリオ試験例」中で実施しているのので、そちらを参照のこと

## ステップ3：平行ラン

- 基本的な考え方：
  - 従来の業務プロセスと並行に、期間を区切って、新たに開発したソフトおよびそれを利用した業務プロセスを、現場の実際の使用者が実施する。
  - 期間は、月初から、少なくとも月次処理が終わるまで(1サイクルという)は実施する。
  - 使用性、信頼性で出てきた問題点については、ソフト発注者と対策を協議する。
  - 外部設計書からはずれる修正については、基本的に別費用、別スケジュールとする。

# 注文管理システムの平行ラン

- 試験環境: 各店舗に、注文管理システム・クライアント用PCを、従来プロセスで使われているキャッシュ・レジスターの横に置く。
- 参加者: 全店舗の、全接客係
- 作業手順:
  - 3月1日から3月末まで、従来プロセスと、新プロセスを並行した注文受付を、全接客係が実施する。
  - 毎日、材料発注システムへ渡す情報の中身を、新システムの保守者、材料発注システムの保守者がチェックし、問題がないことを確認する。
  - 月末に月次処理を行い、従来の月次処理と結果が同じであることを新システムの保守者、経理担当者がチェックし、問題がないことを確認する。

おわり